

箱のなか

露草

涼虫の平日

はさみ

封筒のきわに、はさみを入れる。
中に入っている請求書を切らないように注意深く、まっすぐ切る。

青い持ち手のはさみで、私は何でも切る。
たとえば契約書に使う製本テープを。
スカートの裾のほつれた糸を。
それから日々の迷いを。

ぱちん、と身体から切り離すと、迷いの断面に水滴が浮かぶ。
透明で小さな水の玉がいくつもいくつも。
少し早かったか、と思う。

素早くはさみについた水滴をぬぐう。
水滴と水滴が呼び合って、くっついてしまいそうになるからだ。
以前、刃の部分から迷いがとれなくなって、使うたびに頭の中を占拠されて大変だった。

水滴が十分に乾いたら、迷いを白い箱の中に並べて入れる。
きっちりふたをして、引き出しの中にしまい、鍵をかける。

迷いたちは箱の中で一旦眠る。

明け方、白い箱の表面には水滴が浮かぶ。朝露みたいに。
戻りたい、とろりとした温かいリンパ液の中で、ぐるぐるとたゆたっていたい。
箱がぐっしょりと濡れていることもある。
でも、とりあわない。

仕方ないのだ。どこかで決めなければならない。日々を暮らすというのは、常に選択していくことだ。
いつまでも保留が続くものには、悪いけれどそれごと出て行ってもらうしかない。

近頃、はさみを手に持つと、迷いたちが一瞬大きく収縮する。
今日は誰が切り離されるのか。
待って、待って待って。
まだ生まれたばかりです、いいえ、こっちはもっと時間をかける価値があります...迷いたちは逃げまどう。
ちりぢりに。思いつくかぎり。あらゆる臓器の影にもぐりこむ。

違うよ、私はポーチを取り出し、絆創膏を小さくカットする。

今日はまだいい、と思う。
リンパ液がたぶん、と波打つ。

はさみの入れどきまでもう少し間がある。（涼）

ごはん道

あれはいつの頃だったんだろう？

表面がポコポコとした生地の浴衣を着せてもらう。
浴衣の足元には赤と黄色の風船が飛んでいる。
薄汚れた白いビーチサンダルを履いている。
歩く度にどんどん指の間が粉っぽくなっていく。

醤油を焦がした匂いと一緒に海の匂いがする。
角を曲がる度にどんどん人かわいてくる。
ダダダダダという発電機の音が地面を這って伝ってくる。
ふわふわした白い塊の顔が向こう側から歩いてくる。
「わたあめ買って〜」弟が母親にねだっている。

あれはいつの頃だったんだろう？

私の手には薄ピンク色のパンパンに膨らんだわたあめの袋がある。
袋を握る反対の手は弟の手を握っている。
弟の反対の手にも薄青いわたあめの袋がある。
たこ焼き屋の前を通り、りんご飴が並ぶ店を通る。
私は前を歩く女性と男性の後ろ姿が両親ではないことに、ずっと前から気がついている。
「おねえちゃん、●●レンジャーのお面売ってたよ」弟が話している声がある。
すぐそばにいるのに、ずっとずっと遠くから聞こえてくるような気がする。
このままこの知らない人の後ろを着いて行ったら、どこに行くんだろうと思っている。
わたあめの袋を握る手がヌラヌラしている。
見つからなかった迷子はどこに行くんだろうと思って歩いている。
背中の真ん中を汗がつつつと流れる。

あれはいつの頃の事だったんだろう？

しょんぼりと小さくなったピンク色と青い袋がダンスの横の鴨居にぶらさがっている。
蝉が鳴いている。ソフトクリームみたいな入道雲が見える。
それだけははっきり覚えている。(ち)

涼虫の読書案内

「雨女」町田康（新潮2014年6月号）

周囲を山で囲まれた龍神が棲む伝説を持つ九界湖は、不穏な色の雲に厚く囲まれている。その日、高台にある九界湖ホテルの宿泊客は三組で、男女のカップル、女性誌の取材班と大学生グループだけだ。

カップルの片割れである建築士の吉良は、一方的に別れを告げられた恋人と待ち合わせをしている。相手の女は恵子、雨女だ。

恵子が喜ぶと雨が降り、悲しむと空は晴れる。小学校のとき遠足の日には必ず雨が降ることから始まり、恵子に告白した憧れの先輩が豪雨の被害で死ぬなど、彼女はこれまで自分の幸福と雨がセットであることに深い罪悪感を感じてきた。それでも逡巡しながら吉良に会いにホテルまでやってくる。

恵子が着くと天気は本格的な嵐となる。峠道が崩落し、九界湖周辺が陸の孤島と化す。ホテルは停電し、携帯の電波も届かなくなる。

蠟燭の仄暗い明かりを頼りに手にホテルのバーに集まったスタッフ数名と客の男女は、荒れ狂う暴風雨に恐れをなし、なんとか恵子を悲しませようと策をこらす。一方、吉崎は雨を止ませるために龍神へ祈りを捧げにひとり外へと出て行く...

非常事態には人の本質が出てしまう。弱さやずるさ、逃げも全部。でも町田作品はそれをシリアスには描かない。皆、恵子を悲しませなくてはと思うけれど、特に憎いわけでもない美貌の女に自分から手を下したくない。誰かが口火を切って罵ると一斉にそれに乗じてみたり、後味が悪くて後悔したり、ちょっと優しくしたら雨が強くなったり。自分の中のいい人も悪い人もごちゃまぜのマーブル模様。そのうち別室に恵子を隔離して大学生グループの男女が苦しめる係を担当することになるが...

この話、どうやって終わるの？雨は止むの？恵子はどうなっちゃうの？まったく想像がつかないまま物語は疾走する。でも町田康はちゃんと解決してくれる。龍神も生贄も総出演で。

嵐の中、吉良の龍神への祈りっぷりが凄まじい。湖にざぼざぼと入って行って、本人は生死をかけるくらい真剣なんだけれど、その姿すでに人に非ず。笑って読み進めるのが大変だ。

町田作品はおふぎけを壮大なスケールで描き出す。読み手に鮮やかな虹をみせてくれる。そこが最大の魅力だと思う。（涼）

露草 II

八月最初の水曜日 朝5時、僕は町外れを流れる川の土手にいて、小さな青い花を黙々と摘んでいる。17歳男子の夏の日の始まりとしては、あまり正しくないんだろうなっていうのは、自分でもなんとなく思う。

僕の学校には、高2の夏に、大学の研究室で10日間の体験授業を受けるというカリキュラムがある。理系の僕としては、機械工学科でロボコンに挑戦したり、情報システム学科でポーカロイドをいじってみたりしたかったんだけど、厳正なる抽選の結果、工業化学科で染料と繊維の組み合わせについて学ぶという貴重な体験を引き当て、今に至る。身に余る荣誉には涙が出る。

そのコースを選択したのは僕以外全部女子で、初日から一人ぼつねんと浮いていた僕を気遣ってか、大学院生の女性が、何かと声をかけてくれるようになったのは、まあ、ちょっとした幸運だったと言えるかもしれない。

今も、おしゃべりに余念がない女子たちとは少し離れた場所で、僕と彼女は一緒に作業をしている。俯いているのに疲れてふと目を上げると、クルーネックのボーダーシャツから覗く無防備な胸元が目に入ってきて、僕は慌てて視線をその手元に落とす。

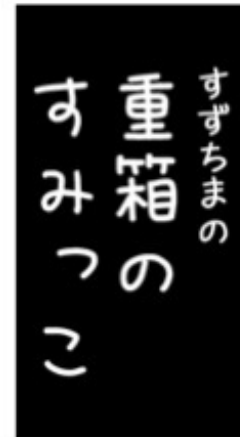
小さく無力に咲く青い花を、彼女は無感情に手折ってゆく。

露草という名に覚えはあったけれど、その植物が、こんな薄青の花をつけるということは知らなかった。学習の目的は、この花から抽出した原液に、繊維への定着力を増すための化合物を加えて、染料を合成すること。日本古来の「露草色」とは少し違った色合いとなるそうで、今のところ僕らはそれを「露草(藍)」というコードで呼んでいる。

それが具体的にどんな色調となるのかは、まだよく分からないのだけれど、17歳の夏の色として、僕の記憶にずっと残るんじゃないかという予感はある。(stick boy)

ち 薄着になってきて、
 アクセサリーが楽しい季節になりましたよね。
 涼 涼虫さん、アクセって
 どのなのつけます？
 私ほね、指輪とブレスレットをよくつけます。素材はゴールドかパール。シルバーは全然持ってないんですよ。
 ち 私はシルバーがいいかも。かっこよくないですか？
 涼 (ちま子が欲しいイメージの画像をみながら)
 わー、クールビューティ！デザインもシンプル。媚がない。
 えへ♪私、アクセってさらっとつけたいかも。シルバーっ

涼 ち 涼
 て温度がない感じしません？
 わかる。無機質な感じします。私はゴールドかパールで、あつたかみがある華奢な品がある感じのうんです。お店に見に行ってもそれしか目に入らない。
 正反對だ(笑)それって理由があつて、そういうの選んでるの？
 コンセプトは「ザ・女」ですね。マニッシュとか意味がわからないタイプです。



涼 ち 涼
 (爆笑)
 アクセサリーって、お守りっぽいですよね？
 服や靴とはちよつと違って特別なものっぽい感じ？
 これつけてれば安心ですみたいな。
 そうそう！わかります。私も朝、並んだ指輪をぱつとみて、これとこれとって選びます。
 一日よろしくね、みたいなの。
 …あれ、なんか今回のすずちま、女度高くないですか？
 女性誌の覆面対談っぽい！シルバー派のC子(仮名)とゴールド派のS虫(仮名)S虫って…
 怪しすぎませんか？！

露 草
 #38aldb

箱のなか (2014年夏号)

HP : <http://suzuchima.url.ph/>

Twitter : @suzuchima

©すずちま企画

ネットプリント、ダウンロードのご案内

漫画も入った「箱のなか（薄桜）」は、全国のファミリーマート、ローソン、サンクス、サークルKのネットプリントができるコピー機からプリントできます。その他にもHPよりダウンロードもできます。

プリント方法

- 1、お近くのネットプリントができるファミリーマート、ローソン、サンクス、サークルKに行く。
わからない場合は<http://cvsmap.cvs-sds.com/CS/CC1948176406>で検索できます。
 - 2、コピー機で「ネットワークプリント」を選択する。
 - 3、ユーザー番号「MITJ52FGR6」を入力する。
 - 4、「箱のなか露草号」を選択し、文章プリントを選択します。
 - 5、A3サイズになっているか確認後、プリントスタートボタンを押します。
 - 6、「箱のなか露草号」がお手元に！！
- 半分に折って、そのまた半分の半分に折ると、、完成です！！

※申し訳ありませんが、コピー代のご負担をお願いします。

↓下記のページからダウンロードできます。

<http://suzuchima.url.ph/%E3%83%80%E3%82%A6%E3%83%B3%E3%83%AD%E3%83%BC%E3%83%89/>

箱のなか（露草）

<http://p.booklog.jp/book/88996>

著者：すずちま企画

<http://suzuchima.url.ph/>

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/suzuchima/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/88996>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/88996>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ